

着物着付け支援Webサイトの構築

産業情報学部 産業情報学科 学籍番号 11DB007 石川 藍里

1. はじめに

我々が生きていくなかで食・住と並んで、衣服を着るということは必要不可欠なことである。衣服は国や地域によって多種多様であり、時代・環境の変化や社会の進歩と共に多種多様の変化がある。

変化の一例として近年の日本では衣服を着用するにあたって、第二次世界大戦前後の時代では着物が一般的に着用されていたが、それ以降から現在に至るまで洋服が一般的に着用されるようになった。着物日本の伝統衣装の一つであるが、近年の日本人からみた着物の印象として晴れ着衣装というイメージが強いため、成人式や大学の卒業式、結婚式といったあらたまった行事ごとの時にしか着用しない傾向がみられます。

筆者は沖縄国際大学のサークル活動として茶道部に所属しており、学園祭や外部でのボランティア活動として着物を着用する機会が多いのだが、部員で着物を着付けできる人の割合が少なく、着物の着付けについて基礎から学べる機会がない。そこで、本研究では着物の礼服感覚がついてしまっている今日このごろ、着物を実用的に着て欲しい、また着物の知識が少ない人に向け、気軽に着物の基礎知識や着付けを学ぶことができるウェブサイト構築することに選定した。

2. 着物の歴史

日本古来から存在する着物であるが、現代のような着物の形となったのは平安時代以降とされている。それ以前の古代から奈良時代にかけてはズボン型やスカート型の衣服と上衣の組み合わせか、ワンピース型の衣服が大半の割合であったが、平安時代に入ると着る人の体の線にとらわれず、布生地を直線に縫い、合わせることによって着物が作られるようになった。着物は簡単にたためることができ、寒いときには重ね着も出来る上、暑い夏には涼しい素材を使うなど様々な工夫が取り入れられ多くの種類の着物が作られてきた。そんな長い年月着用されてきた着物だが、第二次世界大戦後に衣服の変化が現れるようになった。戦後、和服は高価であり、着付けが煩わしい、持っていたが戦争でなくなってしまった等、以上原因から安価で実用的な洋服の流行に押され、徐々に和服を普段着とする人の割合は少なくなっていった。1970年代までは自宅での日常着として着物を着る人も多くいたが次第に姿を消していったとされる。

3. 現状分析

着物のアンケート調査によると、着物を着た経験がある人は全体の8割である。また、自分で着物を着付ける(着る)ことができない人も全体8割という結果となっており、着物を着たことはあるけれど自分では着付けることができないという人が大多数であることが分かった。

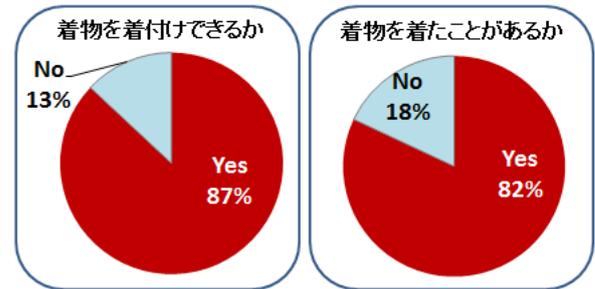


図 3.1 着物を着たことがあるかのアンケート結果

4. 制作環境

・HTML5, CSS, JavaScript, jQuery

5. コンテンツ制作

5.1 概要

本研究ではHTML5とJavaScriptを用いて、マルチメディアコンテンツを制作している。着物についてのページ、着付けのページでは男女それぞれ着物の基本的な知識と着付け方が学べるよう、コンテンツ制作をおこなった。また、豆知識・用語のページは、着物を着付ける上で必要な知識、基本編から応用編まで作成し、豆知識をいれることで本筋とは外れてしまうが、着物を着付けるにあたって知っていて得するコンテンツを設置する。クイズのページでは他のページで学んだことが復習できるコンテンツを設置していく予定である。

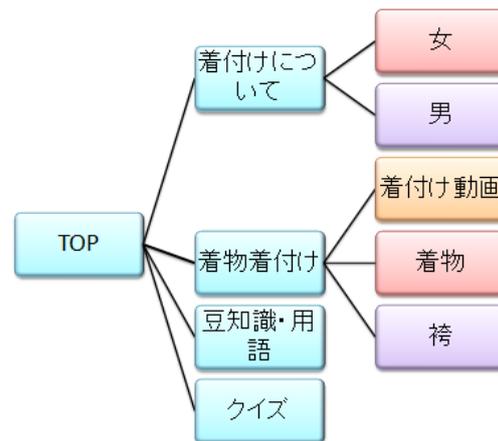


図 5.1 コンテンツ構成

5.2 TOP 画面

それぞれのコンテンツへアクセスできるページとなっており、上部のメニューバーから各コンテンツへリンクすることができる。メニューバーは、下へスクロールしても各種コンテンツへ素早くリンクできるように固定している。

ページの下部には季節に合わせた着物の着方についてみることができるページも用意している。今後は着物について深く知ってもらうことができるリンクサイトを掲示する予定である。

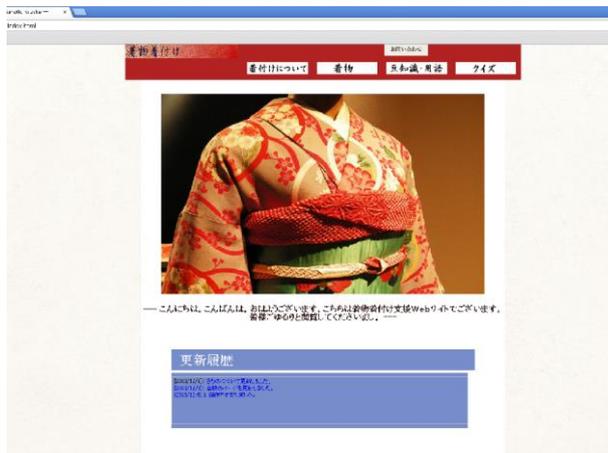


図 5.2 TOP 画面

5.3 着物について

初めて着物について学ぶユーザでも理解しやすいよう、着物を着付ける前に必要な基礎知識と着物を着る上で必要な道具を学べるコンテンツとなっている。図 4.2 は女性用着物の各種名称を知ることができるページの一部であり、各部位名称が書かれている文字のところにカーソルを合わせクリックすると、クリックした文字の説明文と絵のポイントまでスクロールするようになっている。説明文の下にある、戻るボタンでページのトップまで戻ることができる。

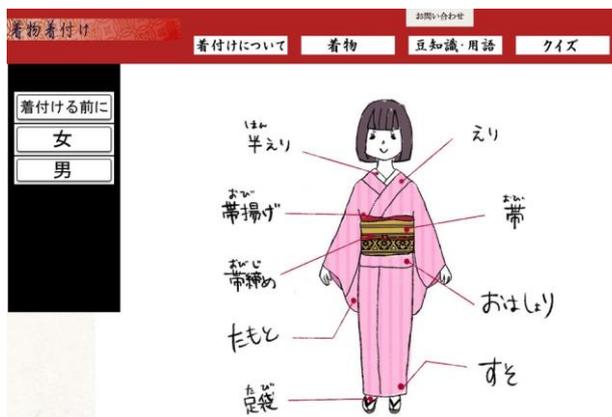


図 5.3 着物各部の名称

5.4 着付けを学ぶページ

主にjQueryを用いて制作したコンテンツとなっている。jQueryを取り入れることによって、Flashのような滑らかな動きを表現することができる。ページを開くと長襦袢編のスライドが表示されており、右端にあるボタンをクリックすると次のスライドが表示される。また、左端ボタンをクリックすると前のスライドへ戻ることができる。長襦袢編を閲覧し終わり、次の着物編のボタンをクリックすると、画面が動き着物編のスライドの場所まで移動する。また、

左のメニューバーから各着付けの動画ページへ移動することができ、アニメーションだけでなく、動画からも着付けを学ぶことができる。今後は男(袴)のページが未完成であるため早急に制作したい。



図 5.5 着付けスライドショーの一部

5.6 豆知識・用語

着物について基礎知識から応用的な知識を知ることができ、自ら着付けをする際に知っておいて得する知識を学ぶことができるようなコンテンツとなっている。また、着物に関しての専門用語は数が多く、筆者自身も知らない用語があったため、用語集を設置することにした。

5.7 クイズ

クイズでは、本サイトで学んだ知識の復習、力試しができるコンテンツとなる予定である。現在まだ未制作であるため今後制作を進めていきたい。

6. おわりに

本論文では、課題のコンテンツ制作することにより、筆者自身の着物着付けへの理解度が高まり、自分自身の勉強ためにもなった。本サイトで初めて着物を学んだユーザが、着物を実用的に夏祭りや普段出かけてみる際、着てみたいという意識を高めてもらう効果を期待している。また、実際にサークルの部員に利用してもらい、本サイトで学んだことを活かし着物の着付けをすることができるのか検証してよりよいシステムの構築を目指す。

今後の課題として、現在 Web コンテンツとして制作途中であり、早急にコンテンツ制作に励みたい。また、Webコンテンツ制作としてスマートフォン向けの着付け支援サイトも連動して制作していきたい。

参考文献および参考ウェブサイト

- [1] 着物のきほん 着付けと帯結び 主婦の友社
- [2] HTML5 スタandard・デザインガイド
- [3] HTML5 インタラクティブ表現ガイド ~HTML5、CSS3、Canvas、CreateJS、JavaScript~
- [4] <http://www.myvoice.co.jp/biz/surveys/15013/>